

佐々木琢磨選手が持子保育園に遊びに来てくれました

園長 原田健次

11月に入り朝晩とすっかり冷え込み、昼間との寒暖差が大きくなってきました。8日(金)には厚生労働省からインフルエンザが全国的な流行期に入ったと発表がありました。今出来ることは「生活リズム」を見直し、整えること。そして、少しでも体の免疫力をつけて健康に過ごしていきたいですね。

10月は私の友人で聴覚に障がいをもっている佐々木琢磨さん(仙台大学職員)が保育園に遊びに来てくれました。佐々木さんは、聴覚に障がいのある人たち(deaf<デフ>)が参加するスポーツの国際大会「デフリンピック」の陸上男子100メートルで、金メダルを獲得したアスリートです。



佐々木さんは青森県五戸町出身で1歳のときに内耳性難聴になり、八戸聾(ろう)学校中学部で陸上競技と出会い、その後、盛岡聴覚支援学校高等部と仙台大学、卒業をしてから同大学職員で短距離選手として活躍しています。

佐々木さんは、「耳が聞こえないと分かったとき、生きることが大嫌いになった。でも、陸上競技に出会い、困難を乗り越えるうちに、多くの方から応援していただけるようになりきつい練習も頑張ることができます」と言って日々身体を鍛えておられます。

今回このような機会を持つとした理由は、子どもたちにいろいろな人と関わってほしいという思いからです。

保育園を卒園すると小学校という新しい社会に出ることになります。その後も社会に出れば様々な年齢の人、外国人、障がいがある人など多様な個性を持つ人たちと生活するのが当たり前になります。

保育園でいろいろな経験をすることで、自分とは違う存在と出会い、他者への思いやりが育まれ、かかわり方を学ぶことは、子どもたちの将来にとって、共生社会を実現するための土台となると思いこのような機会をつくりました。

人を喜ばすことが得意な佐々木さんは子どもたちとの交流の場で、冗談を言ったり(今回は、姫路聴覚特別支援学校教諭の鈴木先生に手話通訳をしていただきました)、金メダルを触らせてもらったり、すぐに和やかな場となりました。また子どもたちが手話でトロクの「さんぽ」を披露するととても喜んでいました。

その後、げんきふいーらどで一緒に走ったり、うめ組のリレー競走をみてもらったり、鮫島先生と本気での競走をしたり、短い時間でしたが楽しい交流の時間となりました。



2025年にはデフリンピック大会が東京で開催されます。

佐々木選手にとって悔いの残らない、思い存分活躍してほしいと思っています。そして、100m二連覇に成功し、金メダルを見せに来てほしいと願っております。皆さんも応援の程、よろしくお願いします。



佐々木 琢磨(ささき・たくま)プロフィール

1993 年青森県生まれ。男子 100m・4×100m リレー日本
デフ記録保持者

盛岡聴覚支援学校高等部、仙台大学卒。現在はアスリート
雇用契約で、母校の仙台大学にて教職員を務める。

八戸ろう学校中学部で陸上競技を始め、盛岡聴覚支援学
校高等部 3 年時に全国ろう学校陸上競技大会で 100m、200m、4×100m リレーで優勝。仙
台大学在学中に出場したソフィア 2013 大会を皮切りに、デフリンピック 3 大会連続出場中。
サムスン 2017 大会では 4×100m リレーのアンカーを務め金メダル獲得に貢献。カシマス・ド
スル 2022 大会では 100m で悲願の世界一に輝く。

